

特選

金融広報中央
委員会会長賞

2022

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

シングルマザーとフードパントリー

東京都・東京都立武蔵丘高等学校 3年 カーン ビスマ

飲食店でアルバイトをしていた時に手をつけていないサンドウィッチやパスタ、ケーキ、余った野菜や果物を賞味期限があるのにもかかわらず廃棄しており、閉店時には45ℓゴミ袋3袋分いっぱい量になっていてとても衝撃を受けた。何故こんなに捨てるのか。私たちが手に取らなかった食品、食べられることなく廃棄される食品の存在を私たちはどれほど知っているのだろうか。

日本ではまだ食べられるのに廃棄される食品が年間522万トンに及ぶ。これは東京ドーム約5杯分の廃棄の量である。この半分以上を占めているのがスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの事業系食品で年間275万トン廃棄されている¹⁾。具体的には賞味期限切れや売れ残りによる食品ロスが多く、現在も増え続けている。そこでロスになった食品をなくすために活動しているフードパントリーに興味を持ちフードパントリーのボランティアを体験した。

フードパントリーの利用者はひとり親の家庭や失業者など生活困窮者が大半を占めていた。また利用者の多くが女性で小さな子供の手を引いて参加する利用者もいた。そこでひとり親世帯に注目してみた。ボランティアとして参加した日はフードパントリーを利用した世帯は64世帯で食品や日用品などがスーパーの袋で2袋分配られた。食品の多くは大手企業からの寄付やロータリークラブ、地元の有志から送られたもので賞味期限が切れる数日前のものが多かった。またQUOカードや図書カード、生理用品や文房具といったものまで幅広い寄付があることにとても驚いた。日本の中でこうした助け合い精神が根付いているのは素晴らしいと感じた。各世帯ではもらえる個数が決められており、利用者には^{あらかじめ}予め世帯人数や現在の困窮状況についてのアンケートでの聞き取りがあり、子供がいる世帯であれば児童扶養手当などの確認書類をメールで聞き取りし、一覧になった名簿を見ながら世帯人数に合わせた配分をボランティアが袋に詰めていく。こうした下準備も大変な作業だと思った。またコロナの影響ということもあり現在

はボランティアが袋に入れて手渡しているが、以前は棚に食品や日用品を並べて、各人が必要な食品を決められた個数だけ自由に受け取れる仕組みでコンビニやスーパーで買い物ができるような感じで運営していた時期もあったという。実際に利用した方からは感謝の言葉も多くもらった。「麺やパンやお好み焼きなど食費を切り詰める努力で家計をやりくりしているので本当に助かります。息子たちに白いご飯が食べたいと言われ我慢させてきたので、こうしていただけるお米がとても貴重に感じます」「晩ごはんのおかずが1品だったのが4品に増えて育ち盛りの子供たちにはとっても喜ばれるんですよ」と言われた。特に学校給食のない休みの時期は食費がかかるので本当に助かっているという声も多かった。母親と連れ立ってきた子供が、「ワンピースのお菓子があるね」「この文房具は学校で使おう！」と笑顔で話していたのを見てこちらまで嬉しくなった。帰る際に「子供食堂」から提供されたお弁当が手渡された日もあった。パントリーの中身はレトルト食品や米、パンや調味料、お菓子などが中心だったが衛生上扱える食品の限界があり、生鮮品は冷蔵での保管の扱いの問題もあるため量としてはわずかだが、肉や野菜が提供される日は求める利用者も多く人気ですぐになくなってしまう。農家の方が新鮮な野菜や果物を送ってくれることもあり、もらえるパントリーの内容はその日によって多少前後している。また生後間もない子供のいる家庭ではおむつと粉ミルクの要望が多いがなかなか寄付されない現実もあった。

2022年3月時点で日本に点在しているフードバンクは178団体が活動しており55団体だった2015年に比べて約3.2倍も増えている²⁾。それに対して食品を取扱う量が団体数の増加ほど増えておらず1団体あたりの取扱量は減少している³⁾。これは利用者が増えていることを意味し、フードパントリーがもっと増えていかなければいけない事実結びつく。そこでフードパントリーを活用したらどれほどの割合で助けになるのか調べてみた。

2020年の2人以上の世帯のエンゲル係数の平均は27.5%である⁴⁾。ひとり親で子供が2人いる場合の生活費をエンゲル係数にしてシミュレーションしてみた。月の平均は生活費が16万6,945円程度、食費が5万1,326円であり⁵⁾、一世帯あたりのエンゲル係数は30.7%と総世帯の平均と比べて非常に高く収入の半分以上を食費にかけていることが分かる。このことから分かることはひとり親家庭ほどエンゲル係数が高く、一般的な家族世帯と比べて支出全体における食費に多くの

負担を抱えているということだ。そのため教育費や娯楽費などの支出を抑えざるを得ないという厳しい経済状況があるのもシングルマザー世帯の実態だ。ここでフードパントリーを利用することでこれまで食費に回していた出費がパントリーの活用により子供の新しい洋服や勉強道具、塾代など他のことにお金が使えするという余裕が生まれる。パントリーを利用することの意味はシングルマザーにとって生活ライフラインを担う一環にもなると思った。

フードロスがなくなるのは難しいがそれを活用する団体が増えてくると良いと強く感じた。日本の社会には生活の苦しいシングルマザーが多くいて、そのような人々を支援する取り組みが広がっている事実を知ることが大切である。一方に余っている食べ物があふれ、他方で食べ物を必要としている人がいて、それらをつなぐ活動に参加できた意義は大きい。フードバンクを社会全体で活用することは食品を受け取る利用者はもちろん、食品を寄贈する側、そして行政としても大きな利点があることが分かった。食品の供給を水道や電気、ガスといった一般的なライフラインと同様に、あらゆる場所へ食品を行き渡らせるための基幹を担う仕組みがフードパントリーであることも理解できた。

「今日、食べるものがない」

「明日から食べ物を得ることができない」こうした事態が生じた時、活躍してくれるのがフードパントリーである。

(注)

- 1) 消費者庁「食品ロス量(令和2年度推計値)の公表について」
URL <https://www.caa.go.jp/notice/entry/028995/>
- 2) 消費者庁「食品ロス削減ガイドブック」
URL https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/pamphlet/assets/2022_guide_book_7mb_part2.pdf
- 3) 消費者庁 食品ロス削減推進会議資料「フードバンク活動の現状と課題」
URL https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/meeting_materials/assets/review_meeting_002_191126_0014.pdf
- 4) s-Stat 政府統計の総合窓口「家計調査／家計収支編 二人以上の世帯 年報」
URL https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&query=エンゲル係数&layout=dataset&tokei=00200561&stat_infid=000031964778&metadata=1&data=1
- 5) 厚生労働省「母子世帯における消費実態と生活扶助基準との比較について」
URL <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/12/s1216-51.html>